

瀬戸内国際芸術祭における訪問者の意識動向

山本暁美（東京大学大学院）

Keyword：瀬戸内国際芸術祭、訪問者、観光意識、観光心理学

【背景】

本研究の目的は、日本における代表的な地域国際芸術祭である瀬戸内国際芸術祭訪問者の観光行動、観光意識を明らかにすることである。

2000年以降、日本各地のアートによる地域振興に注目が集まるなか、2010年に開催された第一回「瀬戸内国際芸術祭（以降、瀬戸芸とする）」は93万人を超える訪問客を集めた。瀬戸芸はその後、開催年を経る毎に訪問者数が増加し、現在では日本を代表するアートによる地域振興の一事例となった。このような地域芸術祭は、地域や経済の活性化が期待され、観光資源が乏しい地域、過疎高齢化の地域で展開されつつある。瀬戸芸に10年ほど先行してスタートし、現在では日本を代表する地域国際芸術祭となった「大地の芸術祭」（新潟県越後妻有地域）では、住民らを対象とした定量調査も散見される（澤村他, 2014; 鷺見, 2012; 勝村他 2008）が、瀬戸芸における訪問者の行動や意識については、これまでほとんど明らかにされていない。

本発表では、瀬戸芸訪問者の属性や、観光意識（訪問目的、満足度と訪問後の気持ち、満足度と地域に対する気持ちとの関係など）、観光行動について、そのデータと分析結果について報告する。

【方法】

瀬戸芸初回からの開催地域の一つである豊島（香川県小豆郡土庄町）において、筆者及び共同研究者は、開催年毎に継続的な複数のステークホルダー調査を実施している。訪問者を対象にした調査は、瀬戸芸（2010）第一回開催期間中である2010年8月8-11日、及び瀬戸芸（2013）第二回開催期間中である2013年8月16、17日に実施し、本調査で3回目となる。本調査は、瀬戸芸（2019）第四回開催期間中である2019年8月9-12日の4日間、豊島（香川県小豆郡土庄町）・家浦港、交流センター内で、家浦港から帰路につく乗船客（豊島訪問者）のうち、高校生以上の日本人男女個人を対象にした自記式質問紙調査を実施した。有効回答数は合計396人である。

調査項目の選定にあたっては、豊島の何に魅力を感じ、どのような体験による気持ちの変化が、訪問者に満足をもたらす、再訪・推奨したくなるのか、その説明変数と

して考えられ得るものを第一回瀬戸芸（2010）開催時の調査から、経年比較項目として使用している。訪問者の属性（性・年齢・居住地など）、観光行動に関して、同行者、滞在日数、訪問施設・場所、観光意識に関して、訪問目的、印象に残っている施設・場所、地域コンテンツ（地域資源）の認知、滞在満足度、再訪意向、推奨意向などである。

また、今回調査での新規項目として、観光庁報告書（2010, 2013）で用いられている「地域における観光サービスの評価」項目、林・藤原（2012）の定義する観光の事後満足評価である「経験評価」項目などを参考に、地域の自然・食事・移動について、訪問後の気持ち、地域に対する思いなどの項目を追加した。具体的には、地域の自然・食事・移動に関する評価項目としては、林・藤原（2012）の機能的評価尺度の「自然満喫」因子4項目のうち、負荷量の高い3項目、及び地域独自の評価のための2項目を筆者及び共同研究者が作成し「自然・景観」項目として追加した。観光庁報告書（2013）の「地域における観光サービスの評価」項目のうち、2. 宿泊施設の評価の2項目を「宿泊」項目とし、4. 飲食・物販施設の評価の3項目に地域独自の評価のための1項目を筆者が追加し「飲食・物販」項目とした。6. 二次交通の評価の1項目、及び6. 二次交通の評価の逆転項目として1項目を筆者が作成し、「移動」項目として追加した。訪問後の気持ちに関する評価項目としては、林・藤原（2012）の機能的評価尺度のうち「自己拡大」因子、「健康回復」因子、「現地交流」因子、「新奇体験」因子から地域特性を考慮し、3-4項目を抜粋して使用した。地域に対する思いに関する評価項目としては、観光庁報告書（2010）「観光満足度調査」の項目のうち、ブランド意識に関する2項目と地域とのつながり意識に関する1項目を「地域信頼」項目として採用し、観光庁報告書（2013）の本調査で用いられた地域に対する思いの2項目を「地域思い」項目として採用した。新規項目に対しては、「とてもそう思う（5点）」～「全くそう思わない（1点）」の5件法で回答を求めたが、地域の食事・宿泊に関する評価の4項目は、体験していない場合は答えられないので「未体験（0点）」の選択肢も追加した。

【結果】

調査対象者は、表1、表2によると、男性150人(37.9%)、女性198人(50.0%)、(性別欠損値48)、15-19歳以下25人(6.3%)、20代117人(29.5%)、30代75人(18.9%)、40代63人(15.9%)、50代47人(11.9%)、60代以上22人(5.6%)、(年齢欠損値47)から成る。経年調査の結果同様に、女性比率が高く、年齢は20代、30代で5割弱を占めていた。

表1 回答者の性別			表2 回答者の年代		
	人	%		人	%
男性	150	37.9%	10代	25	6.3%
女性	198	50.0%	20代	117	29.5%
不明	48	12.1%	30代	75	18.9%
計	396	100.0%	40代	63	15.9%
			50代	47	11.9%
			60代以上	22	5.6%
			不明	47	11.9%
			計	396	100.0%

以前に瀬戸芸に来たことがあるか、訪問経験の有無については、「ある」が159人(40.2%)、「ない」232人(58.6%)、不明5人(1.3%)であった。滞在期間は、日帰りが358人(90.4%)、宿泊34人(8.6%)、不明4人(1.0%)であった。同行者については、「1人で来た」が47人(11.9%)、複数344人(86.9%)、不明が5人(1.3%)であった。複数での訪問者が多いことがわかった。

豊島の訪問目的に関する質問の結果が表3である。比率の高い順に、「1 瀬戸芸を見る・参加すること」299人

表3 訪問目的 (複数回答)		
	人	%
①瀬戸内国際芸術祭を見る・参加すること	299	76.1%
②自然景観を見ること	149	37.9%
③アート作品(美術館)・建築を観ること	236	60.1%
④スポーツやアウトドア活動を楽しむこと	11	2.8%
⑤自然の豊かさを体験すること	55	14.0%
⑥美味しいものを食べる	54	13.7%
⑦買い物をする	6	1.5%
⑧目当ての宿泊施設に泊まること	5	1.3%
⑨海で遊ぶこと	9	2.3%
⑩島のひととの交流	11	2.8%

※回答者:393人

(76.1%、※比率は回答者393人に占める割合。以下同)、「3 アート作品(美術館)・建築を観ること」236人(60.1%)が1,2位であった。瀬戸芸やアート作品の鑑賞を目的として来訪している人が多いことが示された。つぎに「2 自然景観を見ること」149人(37.9%)、「5 自然の豊かさを体験すること」55人(14.0%)、「6 美味しいものを食べる」54人(13.7%)など、自然体験や食事に関する項目が続き、豊島の自然を体験することも目的となっていることが示された。

回答者の年代別に、訪問者の属性に関する質問の一つ「ふだん、あなたの興味や関心のあるもの」について比較したのが表4である。訪問者の関心は、ふだんは、「美術」が60人(17.9%、※比率は回答者336人に占める割合。以下同)、「音楽」が38人(11.3%)、「建築」が24人(7.1%)であり、「自然」は7人(2.1%)であった。年齢別に詳細を確認すると、ふだん美術に興味や関心があるのは20代から40代、音楽は20代から30代が中心であり、観光は幅広い年代で関心があった。一方、ふだん自然に興味や関心があるのは60代以上のみであった。

つぎに、豊島を訪問した後の滞在満足度、及び地域に対するロイヤリティ項目として、また訪れたいか(再訪意向)、豊島を誰かに薦めたいか(推奨意向)について尋ねた。回答は「とても満足(5点)」～「とても不満(1点)」などの5件法での回答とし、各項目の平均値を求めた。表5-表7がその結果である。滞在満足度、再訪意向、推奨意向共に、平均4.3点程度という高い水準であった。

今回調査から追加した新規項目については、地域の自然・食事・移動に関する評価項目、訪問後の気持ちに関する評価項目、地域に対する思いに関する評価項目に対して、主因子法・プロマックス回転での因子分析を実施した。(地域の自然・食事・移動に関する評価項目は、「未体験」選択肢のある4項目を除く10項目で実施した)

新規項目のうち、滞在満足度と関係が深いと考えられる「訪問後の気持ち」に関する評価項目について、以下

表4 回答者のふだんの興味関心 (複数回答)																
	美術		音楽		演劇		建築		観光		自然		その他		特になし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
10代	1	0.3	0	0	0	0	8	2.4	0	0	0	0	0	0	0	0
20代	25	7.4	16	4.8	0	0	8	2.4	36	10.7	0	0	0	0	30	8.9
30代	12	3.6	12	3.6	3	0.9	4	1.2	6	1.8	0	0	0	0	15	4.5
40代	13	3.9	2	0.6	0	0	0	0	18	5.4	0	0	0	0	0	0
50代	6	1.8	8	2.4	0	0	0	0	30	8.9	0	0	14	4.2	15	4.5
60代以上	3	0.9	0	0	0	0	4	1.2	0	0	7	2.1	0	0	0	0
計	60	17.9%	38	11.3%	3	0.9%	24	7.1%	90	26.8%	7	2.1%	14	4.2%	60	17.9%

※回答者:336人

表5 満足度評価				表6 再訪意向評価				表7 推奨意向評価			
点数		人	%	点数		人	%	点数		人	%
1	とても不満	0	0.00%	1	まったく訪れたくない	1	0.25%	1	まったく薦めたくない	1	0.25%
2	やや不満	8	2.02%	2	あまり訪れたいと思わない	6	1.52%	2	あまり薦めたくない	1	0.25%
3	どちらとも言えない	21	5.30%	3	どちらとも言えない	24	6.06%	3	どちらとも言えない	32	8.08%
4	まあ満足	151	38.13%	4	機会があれば訪れてもいい	171	43.18%	4	まあ薦めたい	188	47.47%
5	とても満足	164	41.41%	5	ぜひまた訪れたい	161	40.66%	5	とても薦めたい	126	31.82%
	不明	52	13.13%		不明	33	8.33%		不明	48	12.12%
	計	396	100.00%		計	396	100.00%		計	396	100.00%
満足度平均値		4.37		再訪意向平均値		4.34		推奨意向平均値		4.26	

表8 訪問後の気持ちに関する因子分析：回転後の因子負荷量 (主因子法・プロマックス回転)		
項目	Factor1	Factor2
①日頃の疲れを癒すことができた	0.903	-0.196
②気分的にリフレッシュすることができた	0.945	-0.264
③心にゆとりが生まれた	0.989	-0.213
④自分自身を見つめ直すことができた	0.566	0.262
⑤自分の生活や生き方について考えることができた	0.467	0.378
⑥自分とは異なる価値観や人生観に触れることができた	0.411	0.348
⑦現地の人たちと仲良くなることができた	-0.164	0.978
⑧さまざまな人たちと出会うことができた	-0.177	1.04
⑨ふだんの生活では出会えない人と交流できた	-0.155	1.01
⑩地元の人々の生活を知ることができた	0.022	0.743
⑪豊島でしかできない経験ができた	0.534	0.085
⑫単調な生活から抜け出すことができた	0.719	-0.022
⑬他の人ができないような体験ができた	0.526	0.221
⑭変化に富んだ生活を送ることができた	0.425	0.374
因子負荷量平方和		
	4.735	4.293
寄与率 (%)		
	33.8	30.7

表8に因子分析の結果を示す。解釈可能性から2因子を抽出した。2因子の累積寄与率は0.645%であった。第1因子に負荷量の高い項目は「③心にゆとりが生まれた」「②気分的にリフレッシュすることができた」「①日頃の疲れを癒すことができた」「⑫単調な生活から抜け出すことができた」「④自分自身を見つめ直すことができた」「⑪豊島でしかできない経験ができた」「⑬他の人ができないような体験ができた」であった。第1因子は「癒し・リフレッシュ」因子と命名された。第2因子に負荷量の高い項目は「⑧さまざまな人たちと出会うことができた」「⑨ふだんの生活では出会えない人と交流できた」「⑦現地の人たちと仲良くなることができた」「⑩地元の人々の生活を知ることができた」であった。第2因子は「人との出会い・交流」因子と命名された。以降の分析では、

各因子の項目の平均値を算出し、下位尺度得点とした。

つぎに「地域に対する思い」に関する評価項目について因子分析を実施した。その結果、1因子を抽出した。この因子は「地域信頼・愛着」因子と命名された。以降の分析では、「①豊島に対して良いイメージを持っている」「②豊島は期待に答えてくれる」「③豊島の人々は過去に訪れたことを覚えていてくれたり、特別な扱いをしてくれる」「④豊島に愛着をもっている」「⑤豊島は自分にとって大切な」の5項目の平均値を算出し、「地域信頼・愛着」の尺度得点とした。

ここで、これまでの調査(2010、2013)で導出されたいくつかの仮説を検証した。第一に、芸術祭やアート作品の鑑賞を目的として来訪した訪問者のうち、再来訪意向あり(5ぜひまた訪れたい、4機会があれば訪れてもいい)とした回答者の次回訪問目的を尋ねたところ、「⑩島の人との交流」を挙げる回答者がみられたことから、今回、以下を検証した。豊島への再来訪意向を尋ねた質問の回答(5件法)のうち、再来訪意向が高い層:H、再来訪意向が低い層:Lの2層に分け、L層よりもH層の方が再来訪目的として「⑩島の人との交流」を挙げる回答者が多い。

再来訪目的の回答は、表6に挙げた再来訪意向評価の回答者363人のうち、4機会があれば訪れてもいい、5ぜひまた訪れたいと回答した332人を母数としていることから、4機会があれば訪れてもいい、と回答した168人(欠損値3)をL層とし、5ぜひまた訪れたい、と回答した158人(欠損値3)をH層として、再訪意向の層別に訪問者の再訪理由について比較したのが表9である。

表9 再訪意向別 再訪理由(多重回答形式)																	
再訪意向		再訪理由															
		1瀬戸内国際芸術祭を見る・参加する	2自然景観を見る	3アート作品(美術館)・建築を見る	4スポーツやアウトドア活動を楽しむ	5自然の豊かさを体験する	6美味しいものを食べる	7買い物をする	8目当ての宿泊施設に泊まる	9海で遊ぶ	10島の人との交流	11豊島資料館	12家族・子どもの希望で	13直島に来たついでに立ち寄った	14イベント・ワークショップに参加	15その他	計
再訪意向 4機会があれば訪れてもいい	人	102	71	87	7	27	22	1	8	12	1	4	3	1	1	2	349
	%	29.23	20.34	24.93	2.01	7.74	6.30	0.29	2.29	3.44	0.29	1.15	0.86	0.29	0.29	0.57	100.00
再訪意向 5ぜひまた訪れたい	人	113	87	114	11	32	42	4	20	19	13	1	2	1	1	6	466
	%	24.25	18.67	24.46	2.36	6.87	9.01	0.86	4.29	4.08	2.79	0.21	0.43	0.21	0.21	1.29	100.00

	「癒し・リフレッシュ」因子	「人との出会い・交流」因子
	因子得点 平均値	因子得点 平均値
再訪意向H層:5	4.33	3.18
再訪意向L層:1,2,3,4	3.66	2.70

また、作成した因子得点を用い、表 6 に挙げた再来訪意向評価の回答者 363 人全数を母数として、5 ぜひまた訪れたい、と回答した 150 人 (欠損値 11) を H 層、4 機会があれば訪れてもいい、3 どちらともいえない、2 あまり訪れたいとは思わない、1 まったく訪れたくないと回答した 177 人 (欠損値 25) を L 層として、再訪意向の層別に訪問者の「訪問後の気持ち」2 因子について比較したのが表 10 である。

訪問者は豊島に、芸術祭やアート作品を鑑賞することを主な目的として来島したが、観光意識項目の因子分析結果及び再来訪意向との関係を検討した結果、実際に訪問後に印象に残っているものはアート作品だけではないこと、観光意識評価の「癒し・リフレッシュ」因子、「現地交流」因子と再来訪意向との関係、地域イメージと満足度との関係などが示された。他に、満足度、再来訪意向、推奨意向との関係についての詳細な分析、検定結果、及び紙面の都合で記載できなかったその他の分析については、発表時において報告する。

【考察・今後の展開】

本研究では、瀬戸芸の参加者に対して属性情報、観光行動、観光意識に関する情報を調査し、それらの関係を分析することにより、アート作品だけでなく、地域イメージとの関係が示唆された。瀬戸芸の訪問者は回を重ねる毎に、日本人だけでなく外国からの訪問者も増加している。今後は、外国人訪問者に関する同調査との比較、過去調査との経年比較により、さらに瀬戸芸の可能性を探っていきたいと考えている。

【引用文献】

- ・澤村他 (2014). 「アートは地域を変えたか:越後妻有大地の芸術祭の 13 年:2000-2012」慶應義塾大学出版会.
- ・鷲見 (2013). 「越後妻有大地の芸術祭 2012 に関する質問紙調査報告」『新潟大学経済論集』94:251-280.
- ・勝村他 (2008). 「住民によるアートプロジェクトの評価とその社会的要因」『文化経済学』6(1):65-77.
- ・観光庁 (2010). 「観光地の魅力向上に向けた評価手法調査事業報告書」

<https://www.mlit.go.jp/common/000126596.pdf>

・観光庁 (2013). 「観光地域における評価のあり方等に係る基礎検討業務報告書」

<https://www.mlit.go.jp/common/001051089.pdf>

・林・藤原 (2012). 「観光地での経験評価が旅行満足に与える影響:観光動機と旅行経験の観点から」『関西学院大学社会学部紀要』11(4):199-212.